

ことです。辺野古基地に反対するのはほとんどオール沖縄として定着しています。にもかかわらず、大臣クラスが仲井真知事を説得するためにほとんど来ています。名護市には一切、足を向けずに知事の考えをひっくり返すこ

とができれば、基地建設に進めるとしているのです。その根底にあるものは日本の政治、国民が持つ、沖縄だけに犠牲を強要する沖縄差別・植民地的差別です。

の日」とした四・二八を問うことで、屈辱の時代はどういものだったのか、沖縄の人たちがどういう屈辱を味わい、そして、今解放を求めているということをもう一度考えてもらいたいと思っています。以上

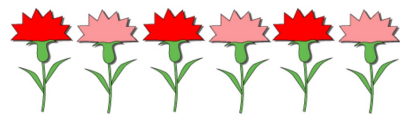
この本はおもしろい

本当は憲法より大切な「日米地位協定入門」

沖縄国際大学大学院教授

前泊博盛 編著

創元社 発行



四月二十八日、政府はサンフランシスコ講和条約によって主権を回復したと「主権回復の日」式典を開きました。みなさんはどう思われましたか？沖縄ではアメリカの支配

下に置かれた屈辱の日として抗議の大会が開かれました。私はこの本を読んでいる途中だったので、「主権なんかどこにあってねん」と苦々しく思いました。

この本のタイトル「本当は憲法より大切な」の「大切な」の意味は「大事にしよう」ってことじゃなくて「憲法より重要」って意味だと私は受け取りました。日本のアメリカ

追隨の現状を変えるには日米地位協定を変えなくてはならない。私たちは日本国憲法が日本の最高法規だと教えられてきましたが、本当は安保を中心としたアメ